

京丹後市公営プールのあり方検討会議（第 1 回）会議結果報告書

1. 開催概要

日時：令和 7 年 7 月 16 日（水）13:30～15:35

場所：京丹後市峰山地域公民館

出席者：委員 8 名、事務局、傍聴人 10 名

2. 主な議題と議論内容

【1】市民アンケート調査の実施に関する議論

(1) 対象と手法

- ・無作為抽出により 2,000 人に配布を予定。
- ・対象年齢：10 歳～80 歳程度。
- ・地域や年代による偏りを避けるため、人口比に基づいた抽出やクロス集計の必要性を確認。

(2) 設問内容に関する意見

- ・「静の里網野温泉プールを利用していたか」「現在困っているか」といった過去の利用状況の設問を追加すべきとの意見。
- ・「利用目的」や「利用しない理由」等の選択肢に「その他」を加える意見。
- ・「利用料金」に関する設問は、比較ではなく「希望金額」を尋ねる形が望ましいという意見。
- ・公共交通の課題も設問内に追加する意見。
- ・プールの場所による影響の分析のため、設置地域を問う設問を追加する意見。

(3) 配慮事項

- ・小学生向けに「やさしい日本語」やルビを追加。

(4) 参考情報の必要性

- ・建設・改修費用や運営コストなどの試算を、アンケート参考資料としてバランス良く提示することの重要性を共有。
- ・一方で「費用情報が誘導的に感じられる」という懸念もあり、掲載の方法についての配慮を確認。

【2】委員からの主な意見(各観点からの意見聴取)

(1) 教育的観点

- ・小学校プールの老朽化が進んでおり、今後の維持管理、安全面の確保が困難である。
- ・移動時間に伴う授業時間の制約の問題。時間の観点からは自校プールがベスト。
- ・地理的には、峰山・大宮周辺が最もバランスの取れた配置ではないかという意見。

- ・民間プールを活用した水泳授業の実績があり、民間プールでのインストラクターによる指導は水泳授業として効果的という意見。
- ・プールの管理、水泳授業を民間委託できる点はメリット。

(2) 福祉・健康の観点

- ・膝の負担が少ない水中運動は、高齢者の健康維持に有効。
- ・健康意識の高まりの中で、定期的なプール利用への期待あり。
- ・着替えなどの心理的ハードルがあるという意見。
- ・一方で、着替えは慣れれば問題ないという声も。

(3) 観光・まちづくりの観点

- ・単なるプールではなく、「京丹後市版・健康長寿拠点施設」として食や交流機能を含めた複合的整備も検討すべきという意見。
- ・公共施設の「適地配置」の視点から、場所の選定も重要との意見。
- ・「温泉プール」としては、源泉の湧出量が不足しており現状は困難であることの確認。

(4) 財政・施設整備の観点

- ・修繕費と新設費の具体的試算を市民にも開示することが公平性の確保につながる。
- ・ただし、金額提示による「誘導感」への懸念もあり、費用の提示方法に注意が必要。
- ・補助金（スポーツ振興くじ、介護予防事業補助金等）の活用可能性についても意見。
- ・プールの新築・改修の金額が示されているが、他の事に使って欲しいという意見。

(5) 公営プールであるべきか（民間プールではだめか）という観点

- ・誰でも利用しやすい公営プールは整備・維持するべきという意見。
- ・公営、民間問わず、効果的な授業の実施などのメリットを強調する意見。

【3】その他の確認事項

- ・会議は秋頃までに計3回（必要に応じて4回目も検討）開催予定。
- ・プールの在り方検討にあたっては、「浅茂川プールの再生」か「新たな市全体のプール構想」か、あるいはその中間案かを中立な立場で検討。
- ・民間施設との関係性（民業圧迫にならないか）も含めた整理が必要。

3. 今後の進め方

- ・本会議で出された意見を踏まえ、アンケート調査票の修正と参考資料の整備を行う。
- ・アンケートを通じて幅広い市民の意見を把握し、次回会議以降の議論に活用する。
- ・公営プールの「設置場所」「機能内容」「財政負担」「民間施設との関係性」など、多角的に検討を継続する。